

「新しい生活はくるのか」－立論①－

「新しい生活はくる」ディベート情報カードより

- いくら苦しい反乱の時代でも、いつかは日がまた昇る、というように反乱が収まれば、政治なども変わり、新しい生活はくると思う。
- 「わたし」は新しい生活がくることを望んでいて努力しようとしているのにこないことはない。気持ち次第では何でも変わるので、心を入れ替えて生活すれば生活も変わると思う。
- 信じてみんなが願っていれば、いつかはくると思う。

「新しい生活はくる」側の立論

司会 それでは、ルールにしたがって第5回ディベート討論会を始めます。最初に、新しい生活はくると考える側の立論を始めてください。時間は3分です。

これから、新しい生活はくる側の立論を始めます。私たちが新しい生活はくると考える根拠は2つあります。その第1は、「わたし」が異郷の地に行くからです。第2は、時間が全てを流してくれるからです。

まず、第1の根拠について説明します。「わたし」は、異郷の地へ行くのです。異郷というのは新しい地、新しい地ということは、今までの「わたし」を知っている人はいません。もちろん、「わたし」も知っている人はいないのです。周りはすべて知らない人ばかり……。そんな中で、今までと同じような生活ができると思いますか。できませんよね。だから、新しい生活がくるのです。

次に、第2の根拠について説明します。時間が全てを流してくれるということは、過去の嫌なことを時間がすべて消し去ってくれるということなのです。皆さんは、友達とけんかをしたことはありますか。ある人はそのことを思い浮かべてください。けんかをして気まずいなあと思っていると、何日か、あるいは何か月かかるかしれませんが、時間が経っていくにつれて、その気まずさがなくなり、自然と元の仲に戻れるものでしょう。

このように、時間は、嫌なことなど流してくれるのです。「わたし」「ルントウ」その他の人たちも、時間が経てば新しい生活がくるでしょう。新しい道はきっと開けるのです。

以上の内容をもって、私たちの立論とさせていただきます。ありがとうございました。

司会 ありがとうございました。時間は1分36秒でした。